

2016年3月期 第2四半期決算 電話説明会 質疑応答

実施日：2015年10月29日(木)
当社説明者：執行役員 経理部長 吉田 謙次
IRグループマネージャー 浅井 一(司会)

以下は、決算電話説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

Q1) 大規模開発構想の一部見直しの背景および内容を教えてください。

A1) テーマパーク価値の最大化に加え、工事によるゲスト体験価値への影響度の最小化という目的のため、一部見直しを行っている。現時点で 5,000 億円レベルという投資の規模感には変わらないが、今後、開発内容を具体化していくなかで増減する可能性はある。投資額ありきで開発を進める考え方ではなく、2023 年度およびその先を見据えたテーマパークの価値、すなわちゲストの体験価値を最大化していくことを目標に開発を進める。

Q2) 2015 年中に発表予定の大規模開発構想の内容・イメージを教えてください。

A2) 導入予定の施設やスケジュールなど、一部の見直しを踏まえた計画全体についてお知らせする予定である。これまでの内容を見直していることから、リターンについては年内の発表の際ではなく、別の機会でお知らせしていく考えである。

Q3) 上半期の総括および、下半期の業績をどのように見ているのか教えてください。

A3) 上半期は「ワンス・アポン・ア・タイム」が2年目となったことや、悪天候の影響により、入園者数が前年を下回った。下半期では人気のあるクリスマスイベントが実施されることや、「アナとエルサのフローズンファンタジー」を内容を新たに実施すること、映画『スター・ウォーズ/フォースの覚醒』の世界が楽しめる「スター・ツアーズ:ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー」スペシャルバージョンの導入などにより、たくさんのゲストに来園いただけるのではないかと考えている。

Q4) 足元の状況を教えてください。

A4) テーマパークの 10 月の入園者数は前年同期と期初予想をそれぞれ上回って推移しており、10 月として過去最高となる可能性もある。ホテルは前年比較では東京ディズニーシー・ホテルミラコスタの客室改装を実施している影響があるが、期初予想に対して順調に推移している。

- Q5) 10月の好調の要因を教えてください。
- A5) 現時点では、天候が良かったことや、両テーマパークのハロウィーンイベントの好評も要因として考えられる。
- Q6) 中国からのゲストが増えているということだが、上海ディズニーランドオープンの影響をどのように見ているのか、教えてください。
- A6) アジアにおいて、ディズニーのテーマパークがオープンすることはポジティブと考えている。過去には香港ディズニーランドがオープンしたことによって、香港からの来園者数が増加したように、上海ディズニーランドがオープンし、中国の人がディズニーランドの魅力を知り、その認知度が向上することで、次は東京ディズニーランドや世界に一つしかない東京ディズニーシーに行ってみたいという来園動機が高まると考えられる。
- Q7) 今後、株主還元の方針を見直す可能性があるか教えてください。
- A7) 現段階でお伝えできることは、営業キャッシュ・フローを成長投資に充当し、企業価値の向上を目指すということおよび、株主還元は安定的な配当を目指すという考え方に変わりはないということである。

以上